

# 第18回千里浜再生プロジェクト委員会

令和8年3月19日

石川県土木部河川課・港湾課

羽咋地区人工リーフ付近  
2025(R7)年7月撮影

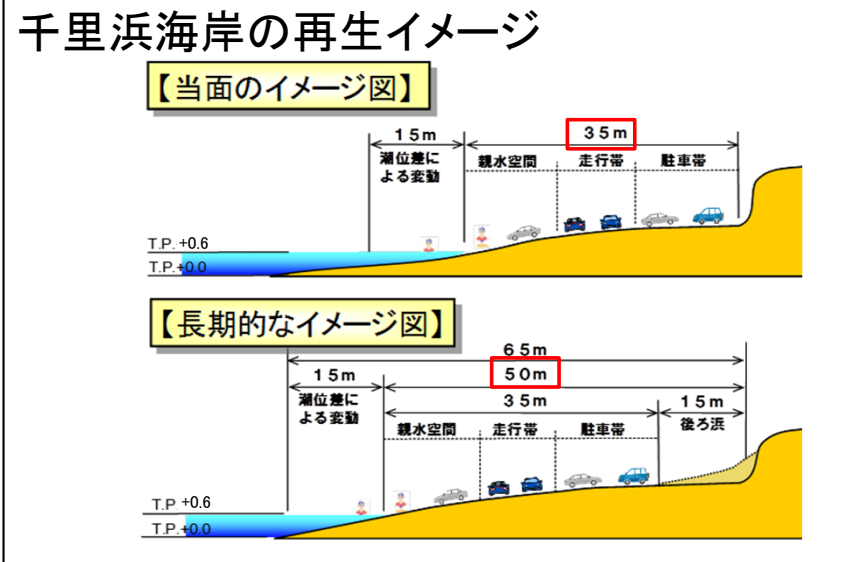
# 目次

1	これまでの経緯	P.3
2	定期モニタリング成果に基づく実態解析	P.7
3	R6年度の陸上養浜からR7年度の直接養浜の状況報告	P.13
4	R7年度の陸上養浜の状況報告	P.20
5	海上採取・投入の状況報告	P.23
6	海上採取箇所の見直し(審議事項)	P.30
7	砂浜の海岸保全施設指定に向けた検討	P.32
8	気候変動の影響に対する検討	P.34
9	海岸保全の意識向上のための取組み(ソフト施策)	P.37
10	まとめ	P.42

# 1 これまでの経緯

# 千里浜再生プロジェクトの目的

- 千里浜再生プロジェクトは、「緩やかな曲線の美しい海岸線を保全」するために、海岸侵食の低減を図ることを目的として、「砂浜の維持・回復」、「砂浜保全に向けた県民意識の向上」を進めている。
- 千里浜再生のイメージとして、当面の目標(砂浜幅35m)と長期的な目標(砂浜幅50m)を掲げている。
- 千里浜再生プロジェクト委員会は、2011(H23)年5月に第1回が開催され、これまでに計17回開催されている。



# 1 これまでの経緯

## 千里浜再生プロジェクトの侵食対策

■ 千里浜再生プロジェクトにおいて、侵食対策として、以下の対策を実施してきた。

- ・人工リーフ(今浜地区、羽咋地区)
- ・養浜(海上投入、陸上養浜、直接養浜)
- ・砂流出防止工(サンドバック)



図 千里浜海岸の対策箇所位置



人工リーフ(羽咋地区)整備状況  
実施期間: 2015(H27)~2022(R4)(完了)



海上投入  
実施期間: 2012(H24)~



直接養浜  
実施期間: 2025(R7)~

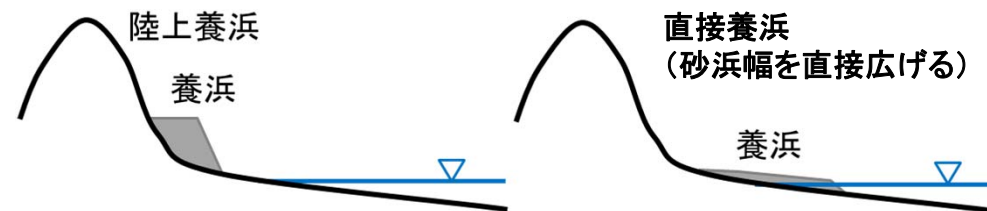


砂流出防止工(サンドバック)  
実施期間: 2012(H24)~2017(H29)(完了)

# 侵食対策の実施方針

- それぞれの養浜方法の役割と効果、メカニズムは以下のとおりであると考えている。

	役割	砂浜回復に寄与する効果の違い	メカニズム
海上投入	<ul style="list-style-type: none"> <li>効率よく大量の土砂を投入することにより土砂バランスの不均衡を改善。</li> <li>沖合砂州(バー)付近に投入することで、消波効果を高めるとともに、バーの保全に繋がり海岸域全体の土量を維持することができる。</li> </ul> <p><b>絶対量が不足している土砂収支の改善</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の流れを利用するため、時間をかけて効果が現れる。</li> <li>千里浜海岸全体の土砂収支の改善を目的としており、海岸全体に効果を発揮。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の砂の流れを利用した養浜(岸沖漂砂、沿岸流による漂砂)</li> </ul>
陸上養浜	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸側に養浜材を設置し、冬季風浪により、自然の力で砂を供給する。</li> </ul> <p><b>砂浜幅の回復(ドライブウェイに近い箇所での収支の改善)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上養浜は砂浜に投入しているため、効果がすぐに現れやすい。</li> <li>冬季風浪後の沿岸漂砂により、砂浜幅が回復する効果。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬季風浪などの高波のエネルギーを利用し、砂を供給</li> </ul>
直接養浜	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接的な砂浜への養浜により、砂浜幅を広げる。</li> </ul> <p><b>砂浜幅の拡張(ドライブウェイの確保)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接、養浜によって砂浜幅を広げるため、養浜後すぐに効果が現れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人為的な砂浜幅の回復</li> <li>大きい波浪を受けると流出</li> </ul>

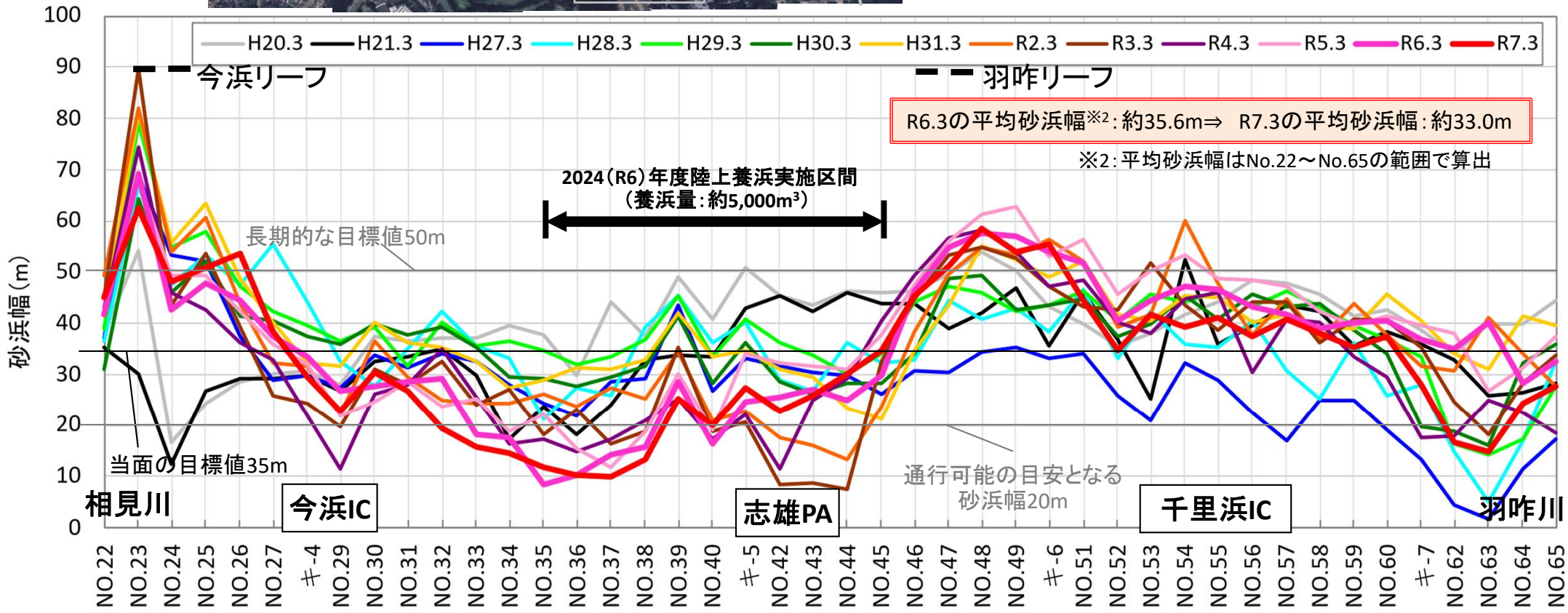


## 2 定期モニタリング成果に基づく実態解析

## 2 定期モニタリング成果に基づく実態解析

# 千里浜海岸の砂浜幅（3月）

- 2025(R7)年3月時点では、ドライブウェイの通行可能な目安となる砂浜幅※<sup>1</sup>20mを下回る箇所がある。特にNo.36、37の砂浜幅は約10m程度となっている。
- 2025(R7)年3月時点では、No.22～No.65の範囲のうち約2割が20mを下回っている。

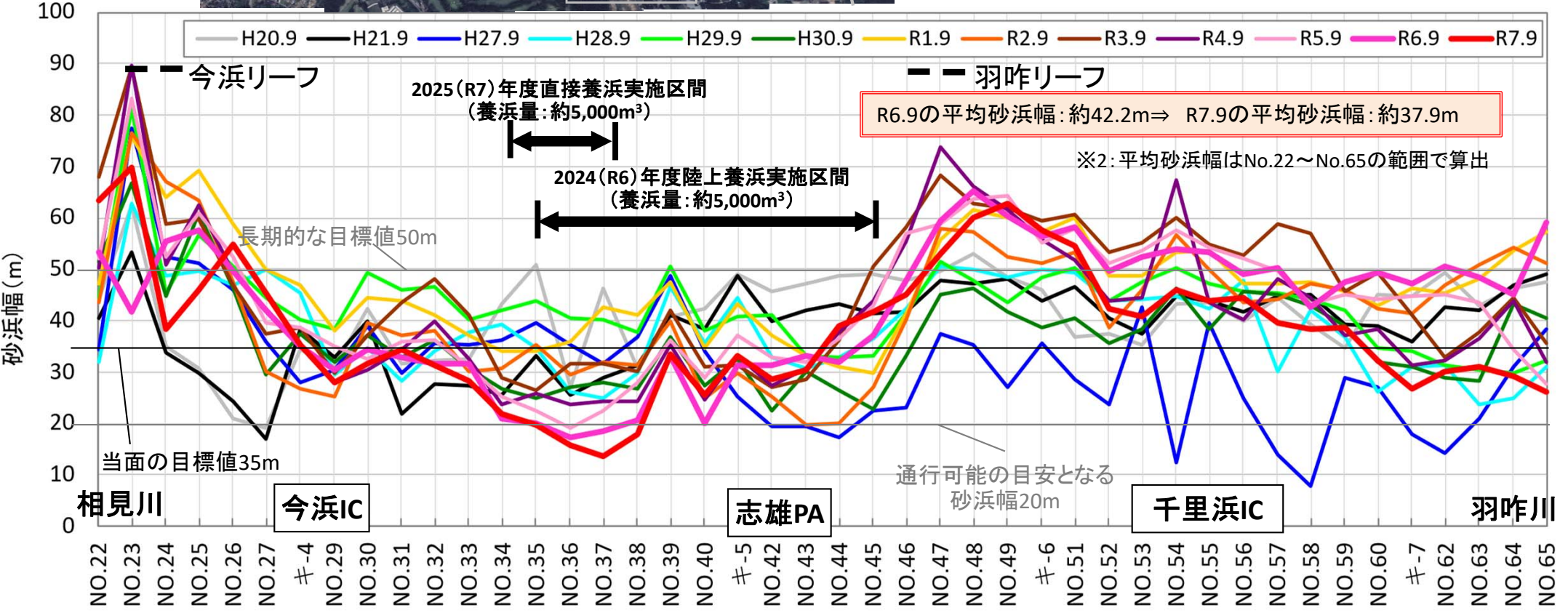


※1: 砂浜幅は「護岸端部・ブロック端部・砂丘基部」から「T.P.+0.6m」までの距離とした。

## 2 定期モニタリング成果に基づく実態解析

# 千里浜海岸の砂浜幅（9月）

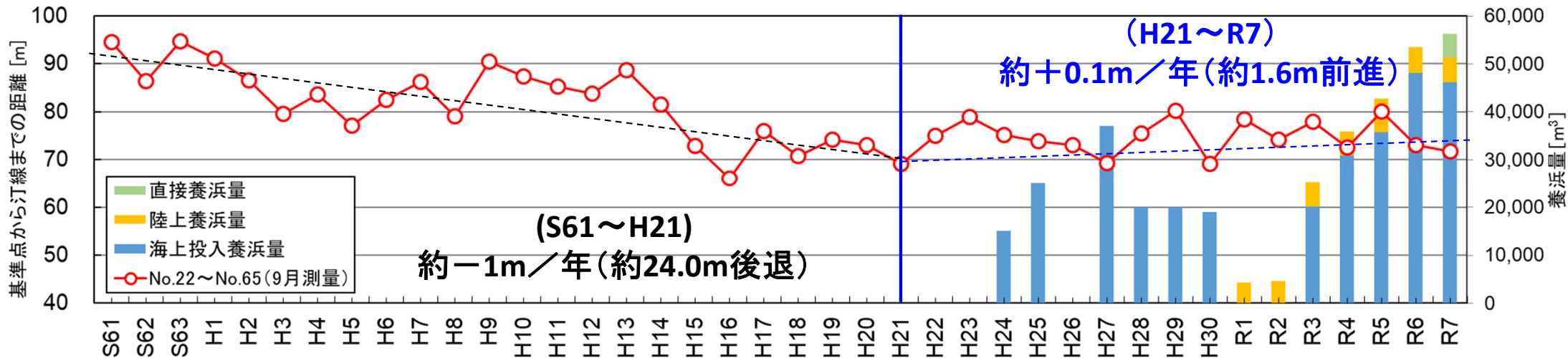
- 2025(R7)年9月時点では、ほとんどの区間で、ドライブウェイの通行可能の目安となる砂浜幅※120mを上回っている。なお、No.35～No.38では20m以下であり、No.37の砂浜幅は最も狭く、約13.6m程度となっている。
- 2025(R7)年9月時点では、No.22～No.65の範囲のうち約1割が20mを下回っている。



※1: 砂浜幅は「護岸端部・ブロック端部・砂丘基部」から「T.P.+0.6m」までの距離とした。

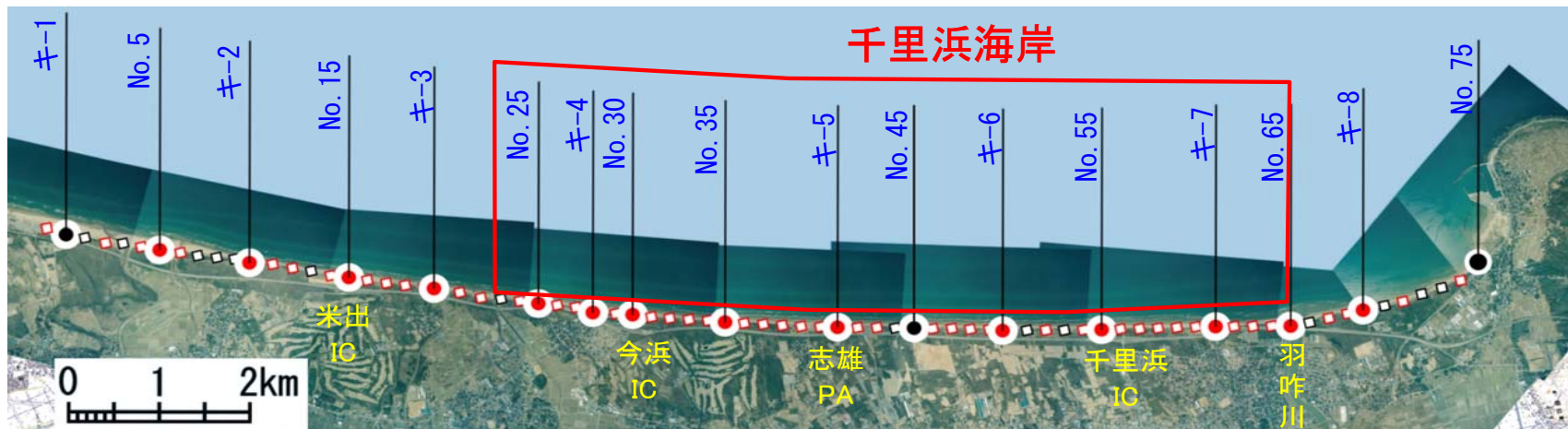
# 千里浜海岸の汀線変化（9月）

- 対策実施前(H21以前)は、9月の千里浜海岸全体での平均的な汀線後退量は約1m/年(S61~H21)であった。
- 千里浜再生プロジェクトで検討した人工リーフ、養浜(海上投入、陸上養浜、直接養浜)、サンドパックスの対策により汀線<sup>※1</sup>は約+0.1m/年(H21~R7)前進<sup>※2</sup>し、対策の効果がみられる。



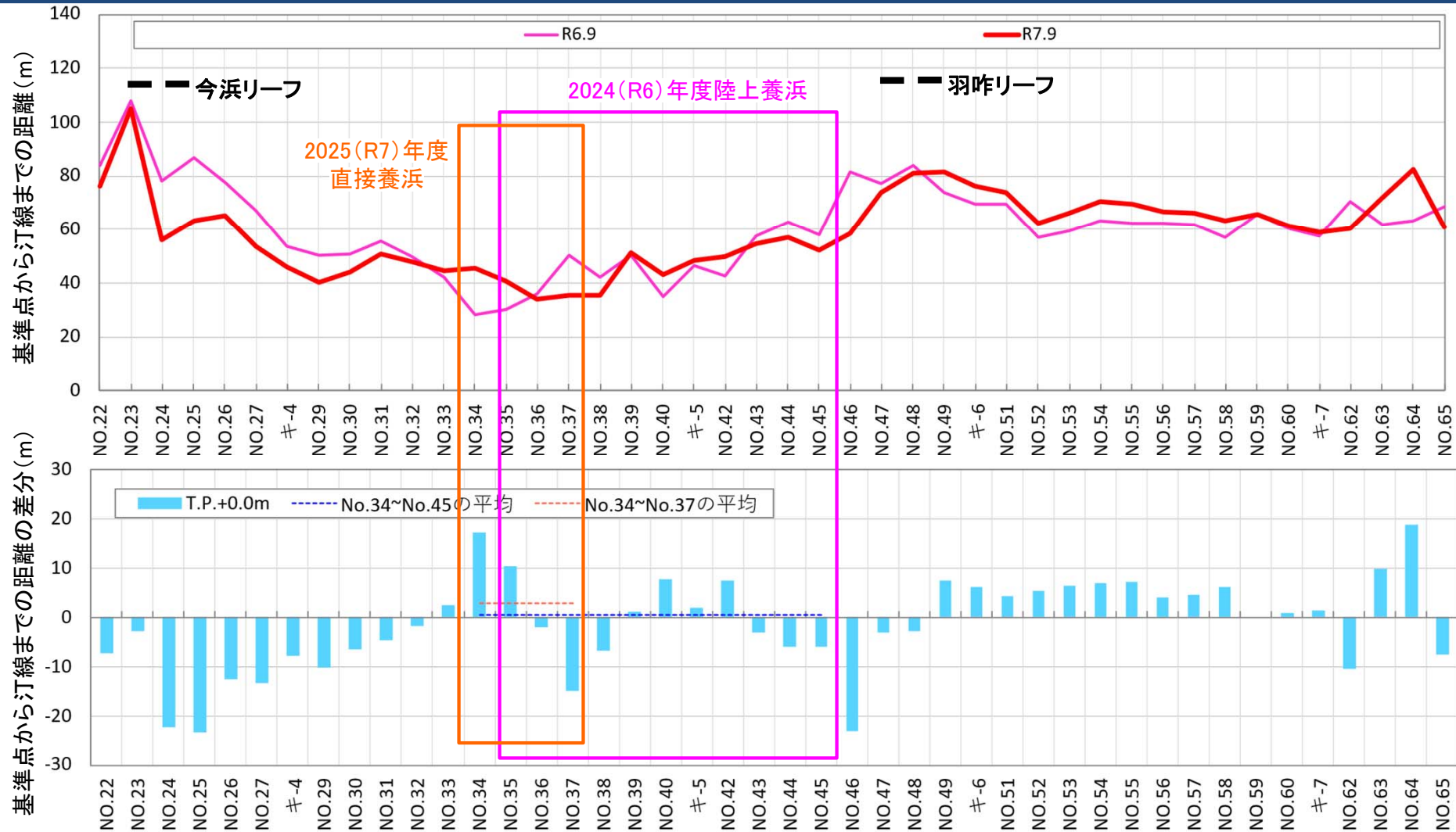
- H22 人工リーフ着手
- H24 海上投入、サンドパックス着手
- R1 陸上養浜開始
- R7 直接養浜開始

※1: 汀線: 千里浜海岸の『基準点から汀線(T.P.+0m)までの距離』を平均  
 ※2: H21~R7における「約1.6m前進」は期間内の傾き(+0.1m/年)と年数(16年)より算出



# 千里浜海岸の汀線変化（9月）

- 2024(R6)年度の陸上養浜区間および2025(R7)年度の直接養浜区間(No.34~No.45)において、2025(R7)年9月と2024(R6)年9月との基準点から汀線までの距離の差分は、平均で約0.6m広がっている。
- 特に、直接養浜区間※(No.34~No.37)では、基準点から汀線までの距離の差分は平均で約2.7mとなっており、直接養浜による砂浜幅の拡大が確認できる。



※直接養浜はNo.34+100~No.37+100の区間で実施しているが、長期的に測量が実施されているNo.34~No.37の測量成果から、汀線の変化傾向を評価した。

# 徳光の波向き分析結果（2024（R6）年度冬季風浪）

- 2024（R6）年10月～2025（R7）年3月の波浪は、平均的な特性よりも高波浪の継続時間が約1.3倍長く、土砂が移動しやすい条件であった。
- 2024（R6）年10月～2025（R7）年3月の波浪は平均的な特性と同様に、波向がWNW～NNWの波浪が卓越していた。特に、2025（R7）年2月には波向NWの有義波高2.0m以上の波浪が卓越しており、土砂が北から南へ移動しやすい波浪条件であった。

表 有義波高4m以上の襲来回数と継続時間

	有義波高4m以上の襲来回数	有義波高4m以上の継続時間
2012年～2024年 (平均的な特性) ※10月～3月を集計し、1年あたりの数値を記載	12回	118時間
2024年10月～2025年3月 (昨年度の特性)	12回	150時間

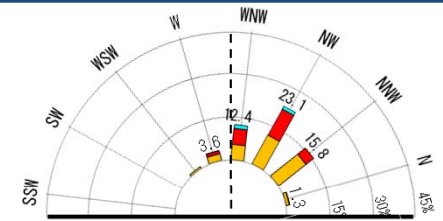
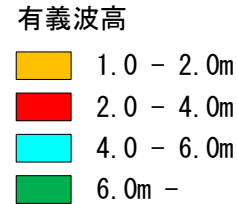


図2012年～2024年の10月～3月の波高頻度分布図

千里浜海岸の平均的な汀線方向(16度)

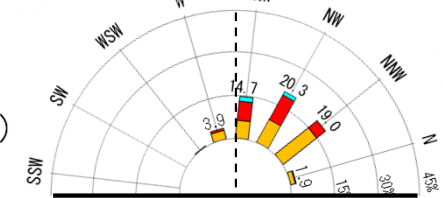
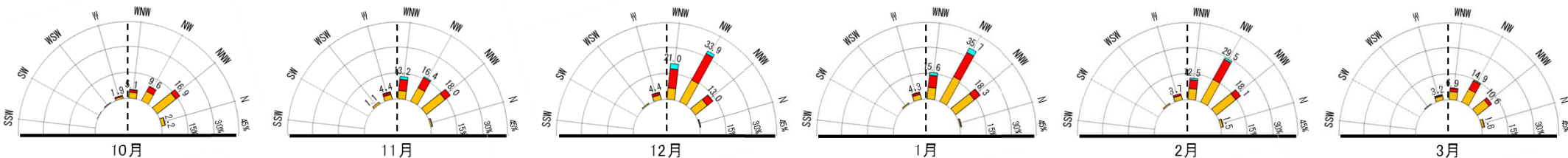
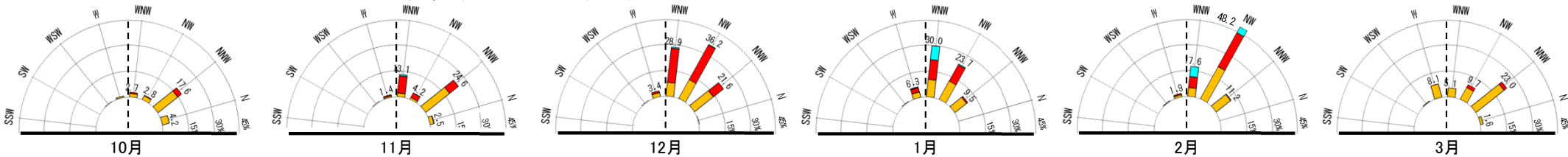


図2024年10月～2025年3月の波高頻度分布図(昨年度の特性)

■ 2012年～2024年の波向別波高頻度分布図(平均的な特性)



■ 2024年10月～2025年3月の波向別波高頻度分布図(昨年度の特性)



※波高頻度分布図は有義波高1m以上の波浪を対象にしており、图中的割合は1m未満の波浪も含めた割合

### 3 R6年度の陸上養浜からR7年度の 直接養浜の状況報告

# 2024（R6）年度の陸上養浜の実施結果

## ■ 【2024(R6)年度の陸上養浜の実施方針】

陸上養浜実施箇所は、2024(R6)年9月の砂浜幅及びこれまでの陸上養浜結果を踏まえた養浜材の投入効果から、投入範囲はNo.35～No.37、No.40～No.42、No.43～No.45とした。また、これまでと同様に、ドライブウェイの通行幅を確保して陸上養浜を実施した。

## ■ 【2024(R6)年度の陸上養浜の概要】

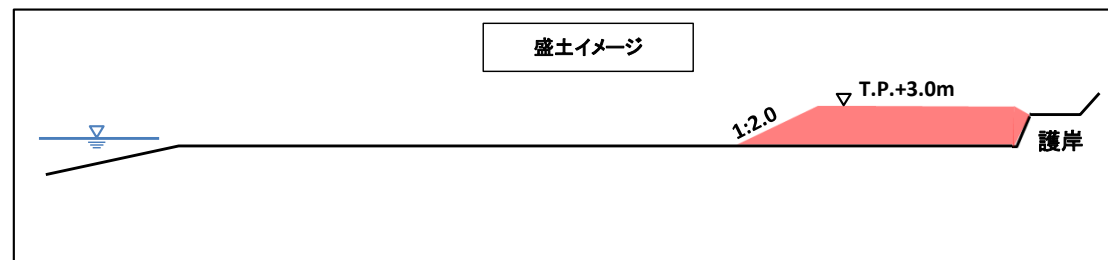
- ・投入時期：冬季風浪前(2024(R6)年11月24日～12月24日)
- ・投入場所：No.35～No.37、No.40～No.42、No.43～No.45
- ・投入土砂量：約5,353m<sup>3</sup>

## 【養浜盛土諸元】

これまでの陸上養浜と同様とする。

天端高：T.P.+3.0m

天端幅：～9m ※背後地幅に合わせて適宜施工



2023(R5)年度陸上養浜実施箇所

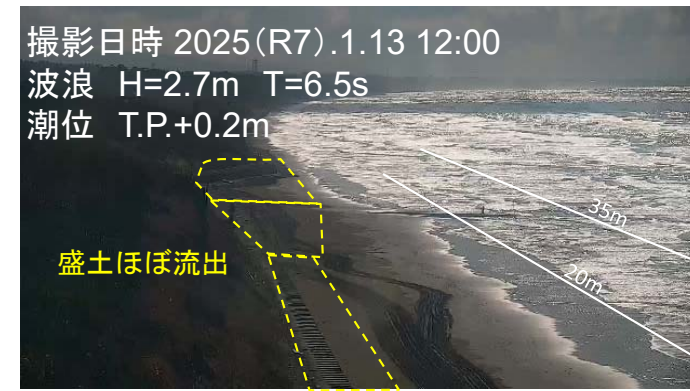
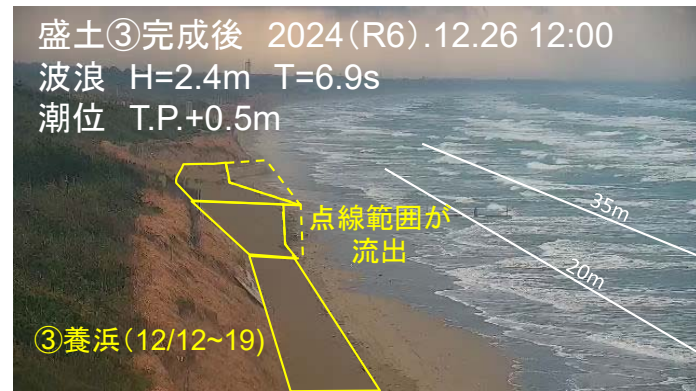
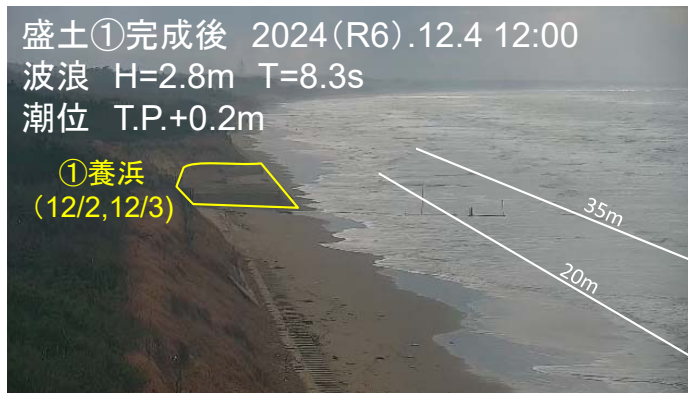
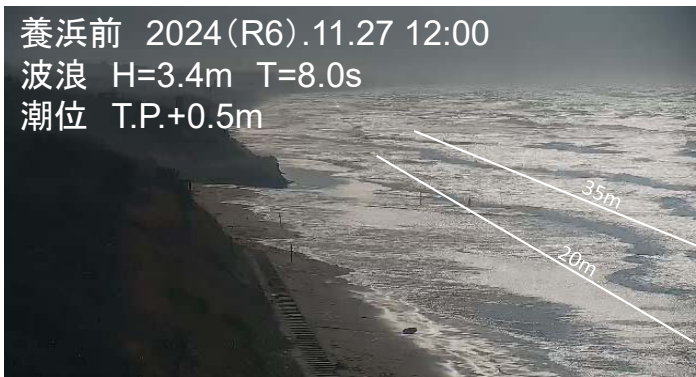
2024(R6)年度陸上養浜実施箇所

2025(R7)年度直接養浜実施箇所



# 高波浪による陸上養浜土砂の流出状況

■ 2024(R6)年度の陸上養浜は、2025(R7)年1月13日時点(養浜実施後約3週間後)で盛土部分がほとんど流出している。



※波浪:金沢港観測データを使用(有義波高、有義波周期)  
潮位:金沢港潮位データを使用

2023(R5)年度陸上養浜実施箇所

2024(R6)年度陸上養浜実施箇所

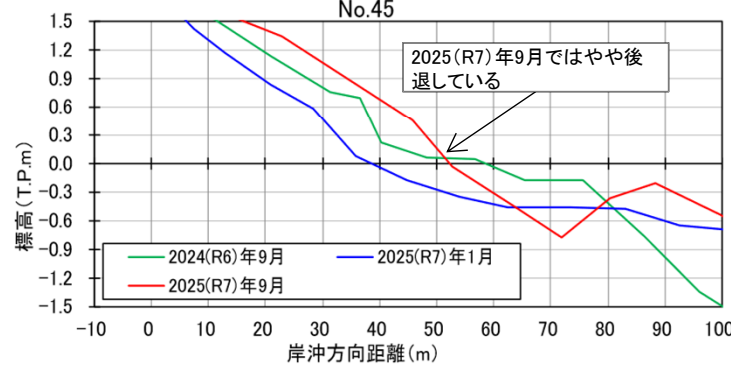
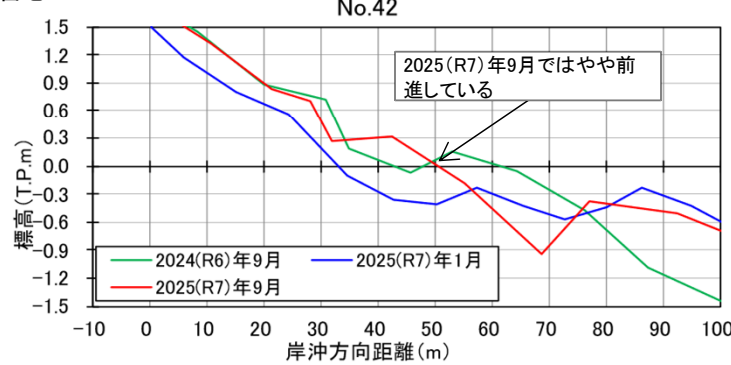
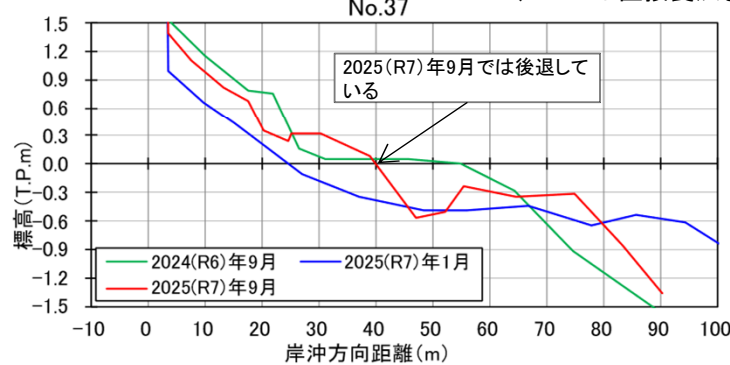
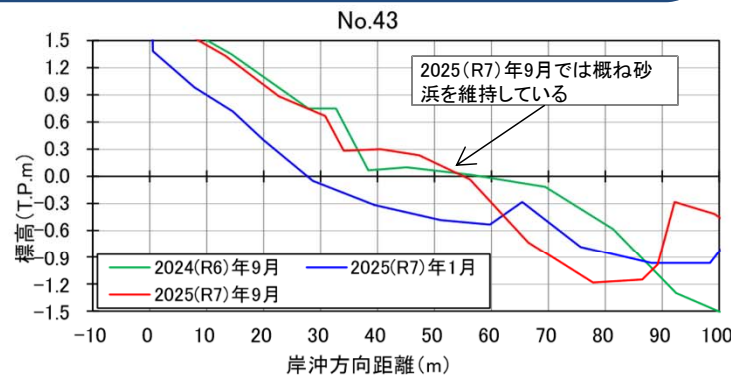
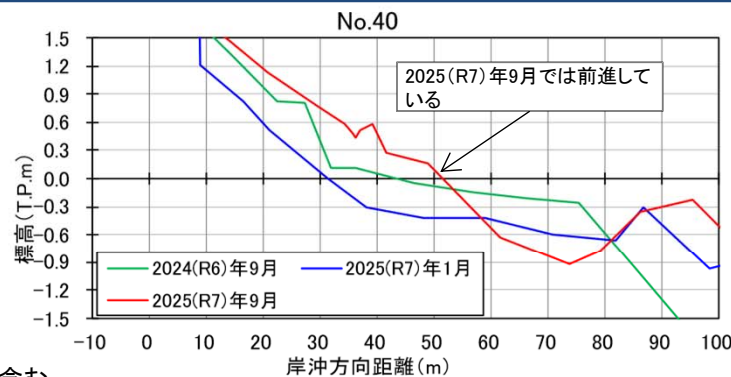
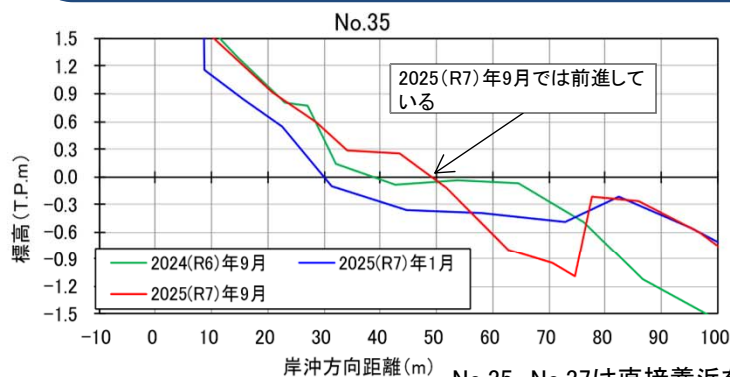
2025(R7)年度直接養浜実施箇所



### 3 R6年度の陸上養浜からR7年度の直接養浜の状況報告

# 測量成果による分析（陸上養浜）

- 2025(R7)年9月時点は、2025(R7)年1月（陸上養浜後）時点のT.P.+0.0mの汀線位置と比較し、前進している。
- 2025(R7)年9月時点のT.P.+0.0mの汀線位置は前進しており、2024(R6)年9月（陸上養浜前）時点と比較し、同程度の砂浜まで回復している。



No.35、No.37は直接養浜を含む

No.35、No.37は直接養浜を含む

2023(R5)年度陸上養浜実施箇所

2024(R6)年度陸上養浜実施箇所

2025(R7)年度直接養浜実施箇所



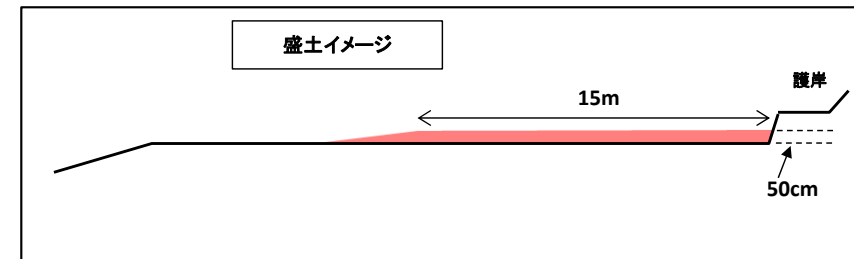
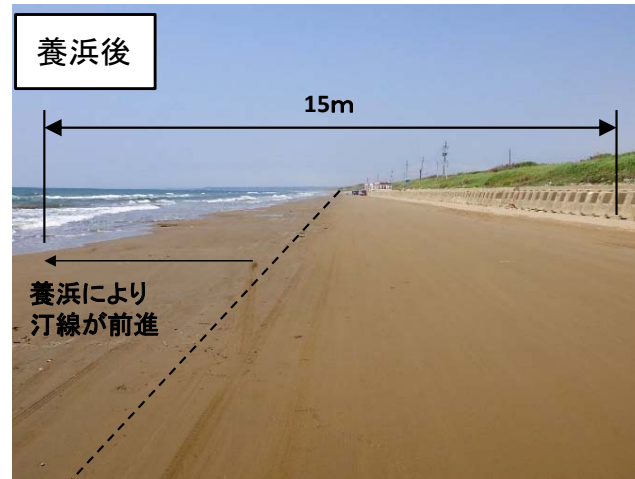
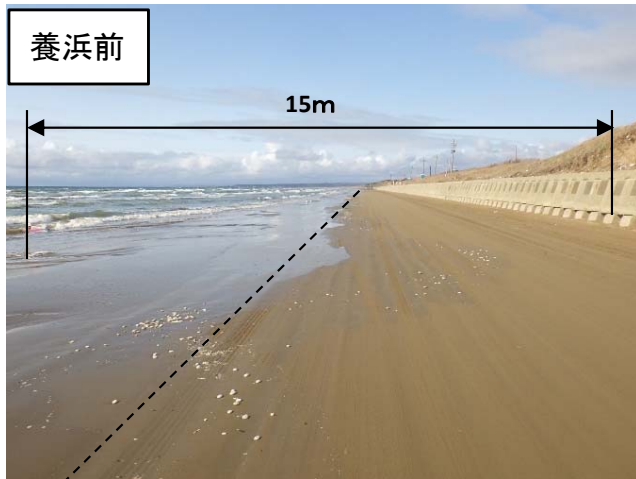
# 2025 (R7) 年度の直接養浜の実施結果

## ■ 【2025(R7年度)の直接養浜の実施方針】

直接養浜実施箇所は、砂浜幅が狭くなっている区間であるNo.34+100～No.37+100の600m区間に投入した。盛土は高は約50cmであり、岸沖方向に約15m程度に均一に盛土を実施した。なお、浜幅が近隣と比較し後退している箇所については、汀線が護岸とおおよそ平行になるようにした。

## ■ 【2025(R7年度)の直接養浜の概要】

- ・投入時期: 2025(R7)年4月7日～4月23日
- ・投入場所: No.34+100～No.37+100の600m区間
- ・投入土砂量: 約5,000m<sup>3</sup>



2023(R5)年度陸上養浜実施箇所

2024(R6)年度陸上養浜実施箇所

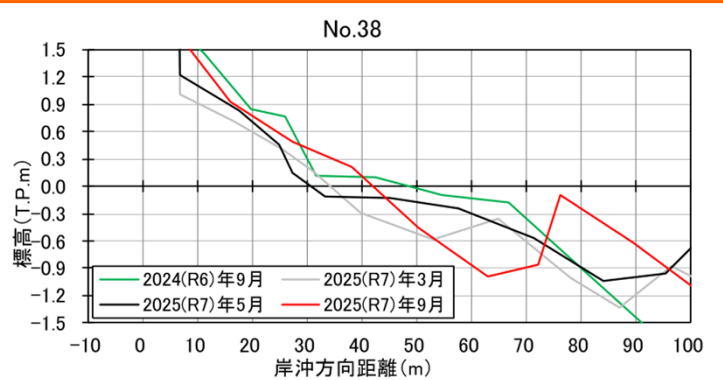
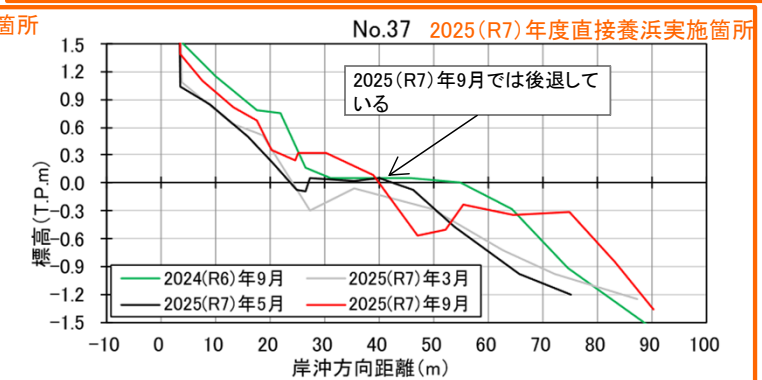
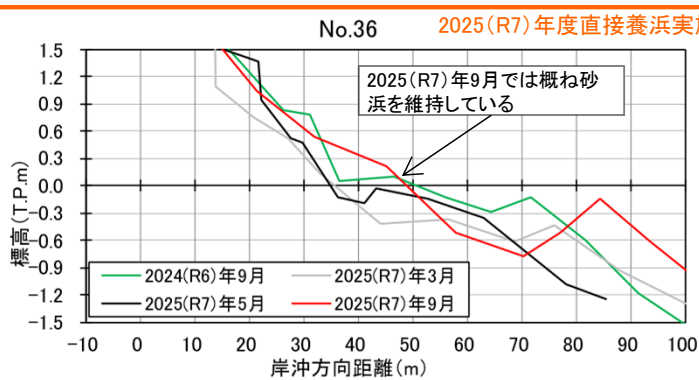
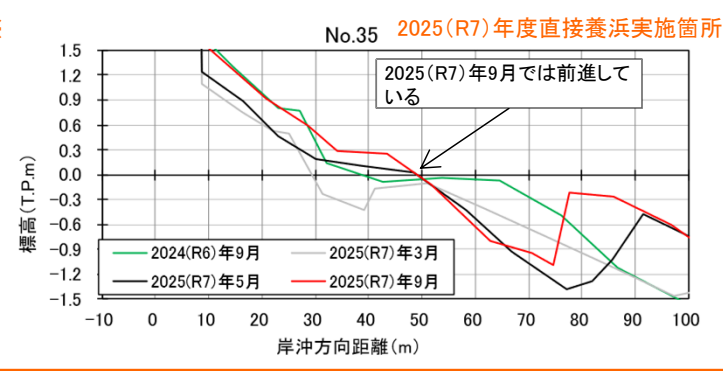
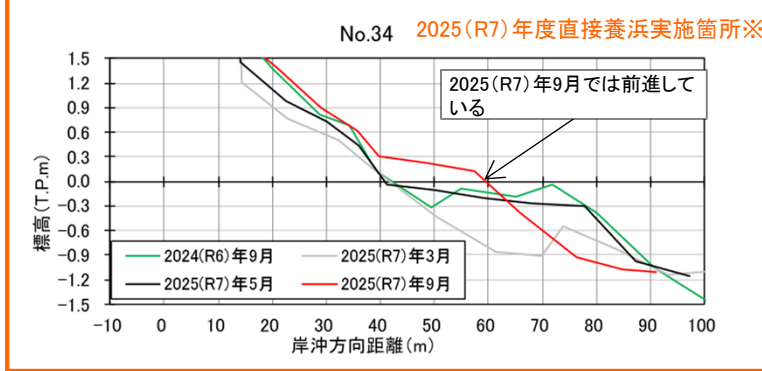
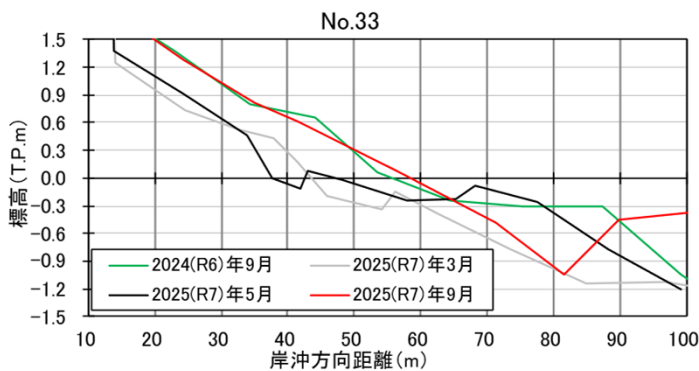
2025(R7)年度直接養浜実施箇所



## 測量成果による分析（直接養浜）

■ **2025(R7)年9月時点**では、**2024(R6)年9月時点**と比較し、直接養浜投入箇所付近の汀線付近は同程度かやや堆積となっている。

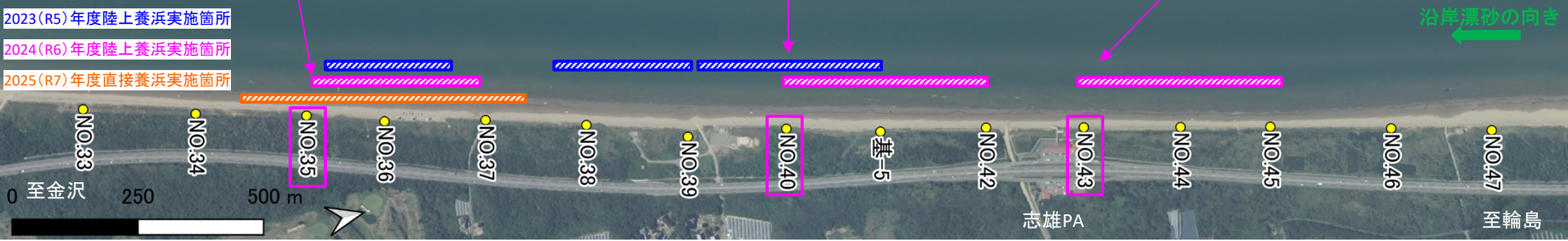
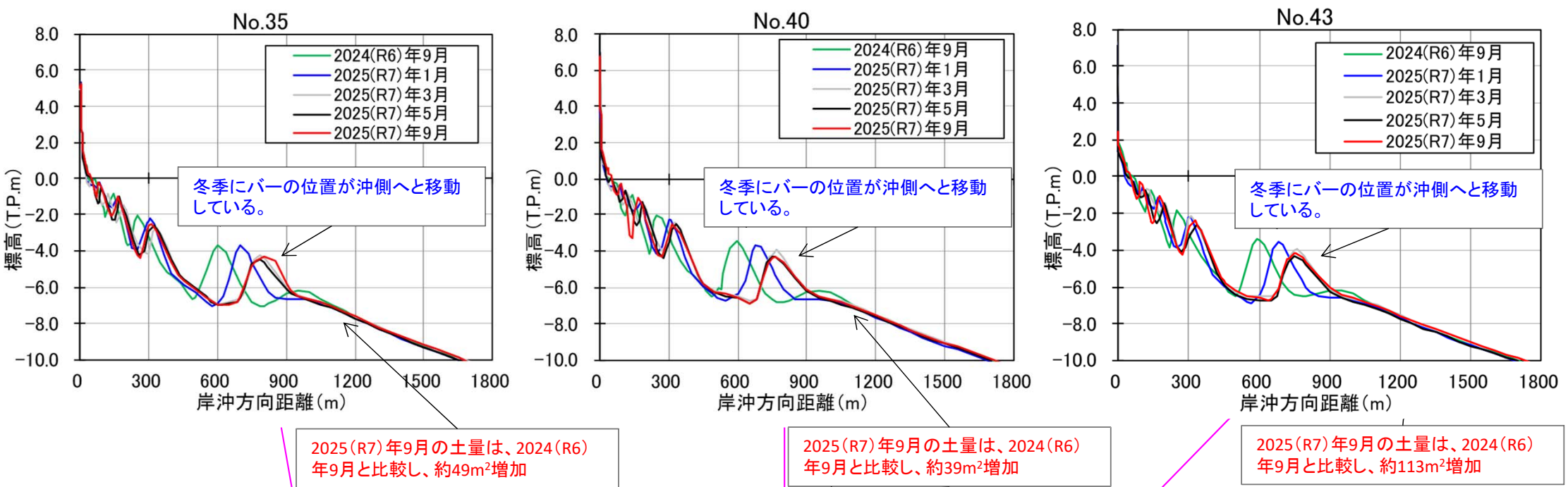
※：直接養浜はNo.34+100～No.37+100の区間で実施しているが、長期的に測量が実施されているNo.34～No.37の測量成果から、汀線の変化傾向を評価した。



### 3 R6年度の陸上養浜からR7年度の直接養浜の状況報告

# 深浅測量成果による分析（陸上養浜および直接養浜）

- 2024(R6)年9月(陸上養浜前)時点と比較して、2025(R7)年1月(陸上養浜後)および2025(R7)年3月時点ではバーの位置が沖側へと移動している。2025(R7)年3月以降は、バーの位置に大きな変化はない。
- 2025(R7)年9月時点の土量(測線毎のT.P.+3.0m~T.P.-10mまでの断面積)は、2024(R6)年9月(陸上養浜前)時点と比較し、やや増加となっている。そのため、岸沖全体で見ると養浜箇所では土量が増加していると言える。



## 4 R7年度の陸上養浜の状況報告

# 2025 (R7) 年度の陸上養浜の実施結果

## ■ 【2025(R7)年度の陸上養浜の実施方針】

陸上養浜実施箇所は、これまでの陸上養浜結果から、投入範囲は38+20～No.40+20の400mの区間とした。  
また、これまでと同様に、ドライブウェイの通行幅を確保した。

## ■ 【2025(R7年度)の陸上養浜の概要】

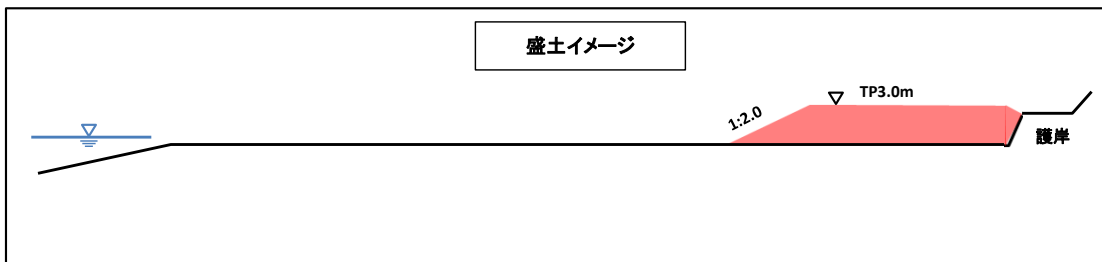
- ・投入時期: 2025(R7)年11月19日～12月10日
- ・投入場所: No.38+20～No.40+20の400mの区間
- ・投入土砂量: 約5,000m<sup>3</sup>

## 【養浜盛土諸元】

これまでの陸上養浜と同様とする。

天端高: T.P.+3.0m

天端幅: ~9m ※背後地幅に合わせて適宜施工



2023(R5)年度陸上養浜実施箇所  
 2024(R6)年度陸上養浜実施箇所  
 2025(R7)年度直接養浜実施箇所  
 2025(R7)年度陸上養浜実施箇所



# 4 R7年度の陸上養浜の状況報告

## 高波浪による陸上養浜土砂の流出状況

■ 2025(R7)年度の陸上養浜は冬季風浪により、2026(R8)年1月14日時点で盛土部分がほとんど流出している。



2023(R5)年度陸上養浜実施箇所  
 2024(R6)年度陸上養浜実施箇所  
 2025(R7)年度直接養浜実施箇所  
 2025(R7)年度陸上養浜実施箇所



## 5 海上採取・投入の状況報告

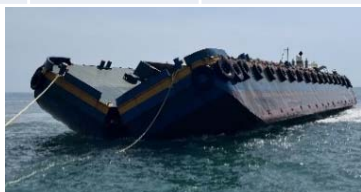
# 海上採取・海上投入の概要

■ 2025(R7)年5月1日から5月27日まで海上採取・海上投入を実施した。2025(R7)年度の採取・投入量は46,247m<sup>3</sup>であった。

年度	投入期間	投入量	採取箇所	投入箇所
H24	9/17~10/27	約15,000m <sup>3</sup>	金沢港	レストハウス沖
H25	8/24~9/22	約25,000m <sup>3</sup>	金沢港	レストハウス沖
H26	※浚渫のみ	なし	金沢港	—
H27	8/17~10/24	約37,000m <sup>3</sup>	金沢港	レストハウス沖
H28	8/18~10/1	約20,000m <sup>3</sup>	金沢港	レストハウス沖
H29	8/27~9/24	約20,000m <sup>3</sup>	金沢港	レストハウス沖
H30	9/15~10/25	約19,000m <sup>3</sup>	金沢港	レストハウス沖
H24~H30 小計		約136,000m <sup>3</sup>		
R3	8/24~9/27	20,056m <sup>3</sup>	滝港沖	羽咋人工リーフ沖
R4	5/11~7/3	30,880m <sup>3</sup>	滝港沖	志雄PA沖
R5	4/15~5/20	35,716m <sup>3</sup>	滝港沖	志雄PA沖 レストハウス沖
R6	4/27~5/24	48,103m <sup>3</sup>	滝港沖	志雄PA沖 レストハウス沖
R7	5/1~5/27	46,247m <sup>3</sup>	滝港沖	志雄PA沖 レストハウス沖
合計		約317,002m <sup>3</sup>		

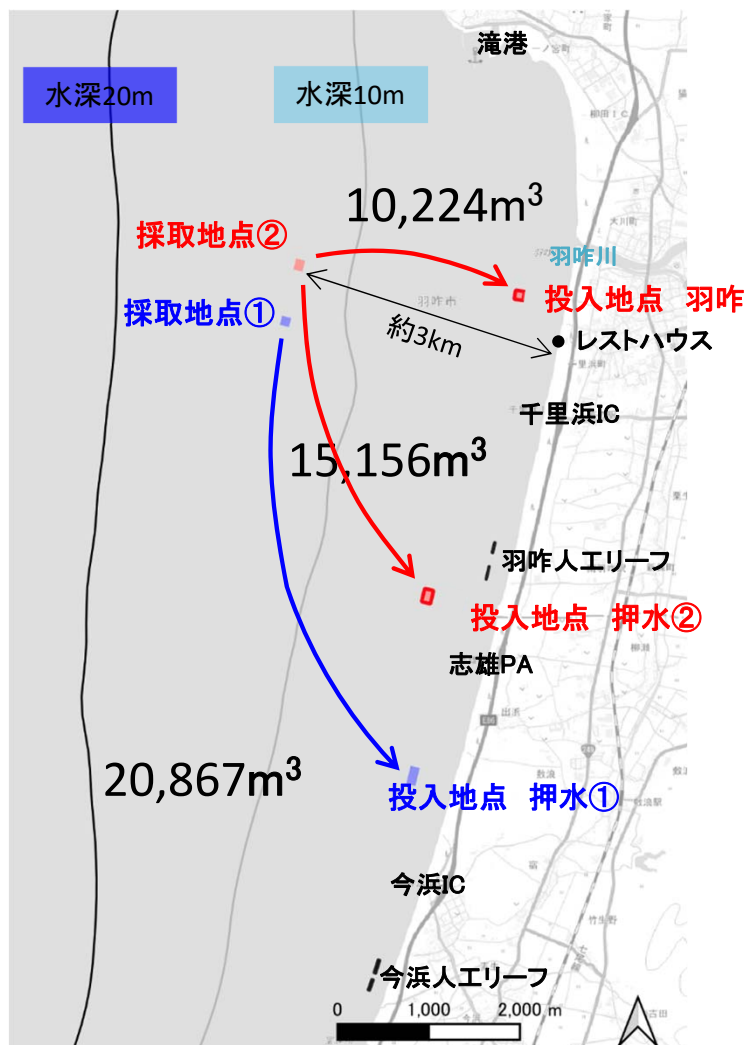


採取：グラブ浚渫船D10.0m<sup>3</sup>

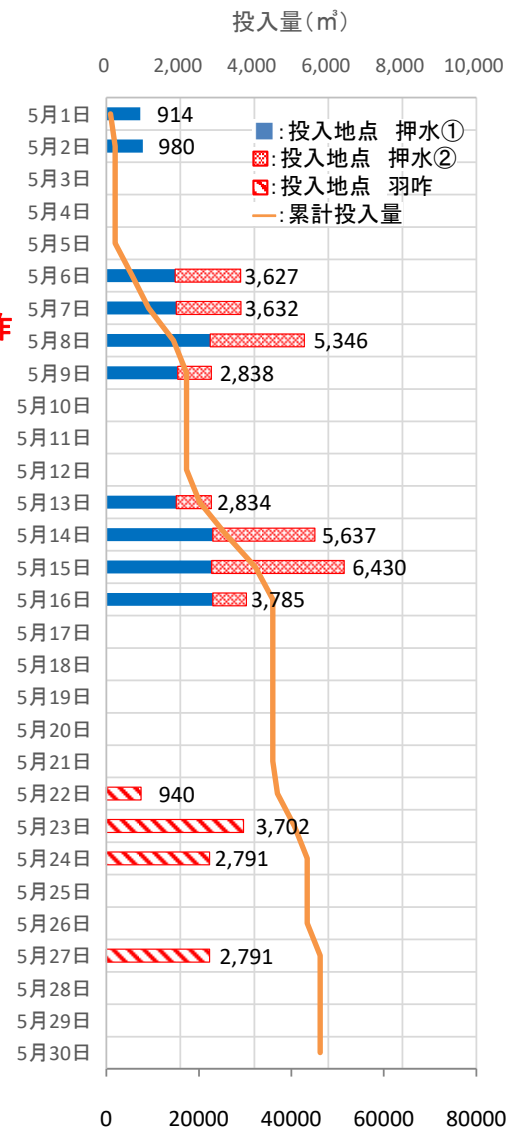


投入：土運船(底開船)1,000m<sup>3</sup>×2隻

【採取・投入】



【2025(R7)年度海上投入実績:46,247m<sup>3</sup>】



# 海上採取地点の地形変化

- 2025(R7)年度海上採取は、2023(R5)年度の採取箇所と同様の箇所(R7採取北)に加え、2024(R6)年度の採取箇所よりやや南側の箇所(R7採取南)から採取した。
- 「①R7採取前(R7.3.10)」より、昨年度までの採取箇所は地形が回復しており、概ね埋め戻っている。
- 「②R7採取直後(R7.5.31)」から「③R7採取後3か月(R7.9.10)」では、期間内に高波浪の襲来がなく、R7採取範囲で埋め戻りが発生していない。

①R6採取後3か月(R6.9.8) ①R7採取前(R7.3.10) ②R7採取直後(R7.5.31) ③R7採取後3か月(R7.9.10)

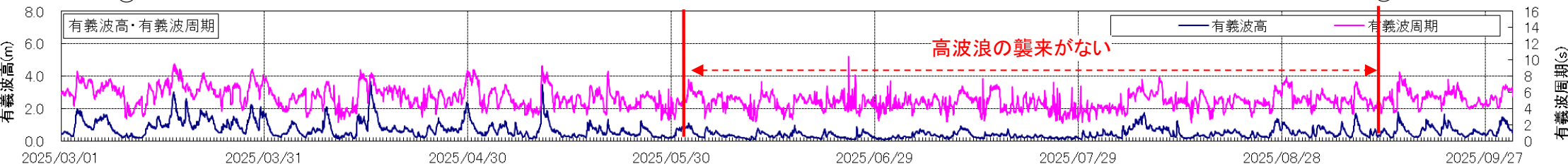
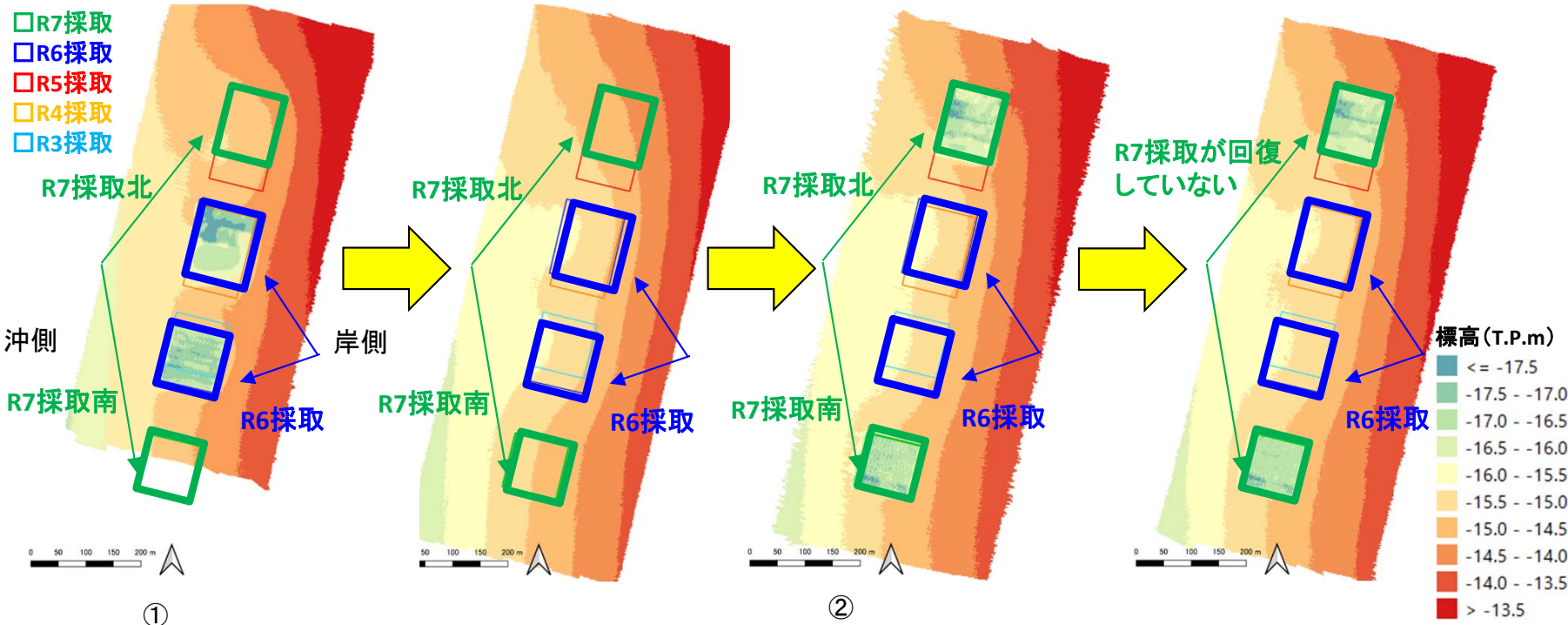
【R7海上採取の諸元】

養浜工(R7採取北)

水深: 約14.0m  
沿岸方向: 約200m  
岸沖方向: 約110m  
採取深さ: 2～3m

他工区(R7採取南)

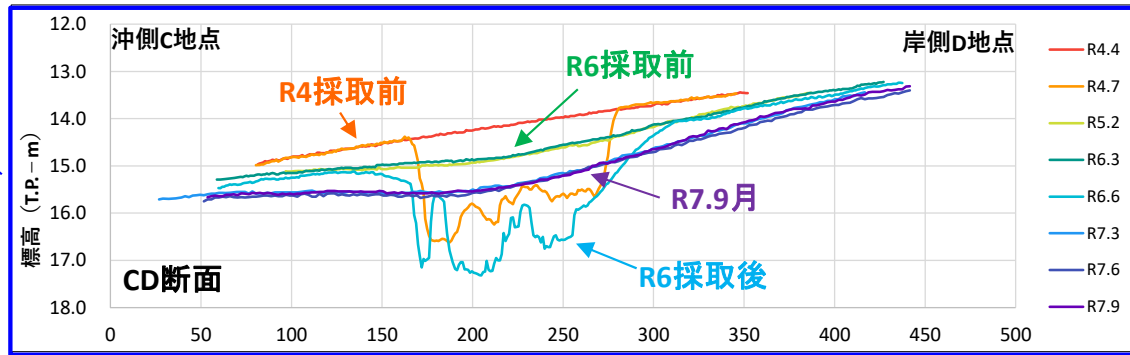
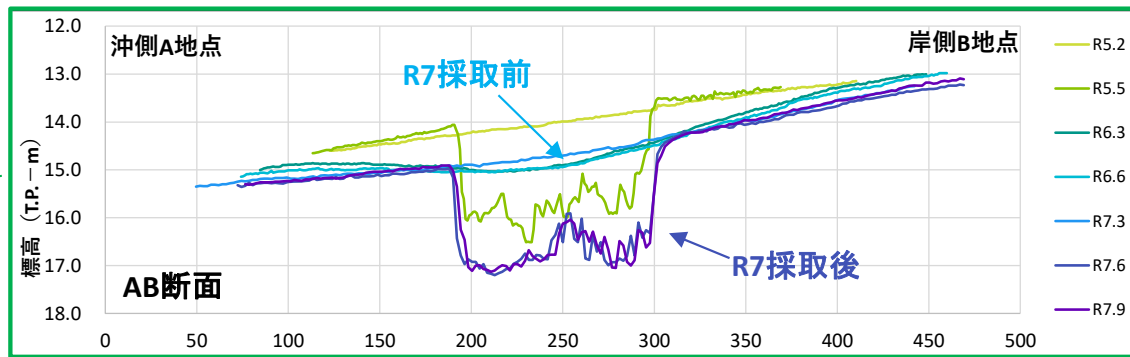
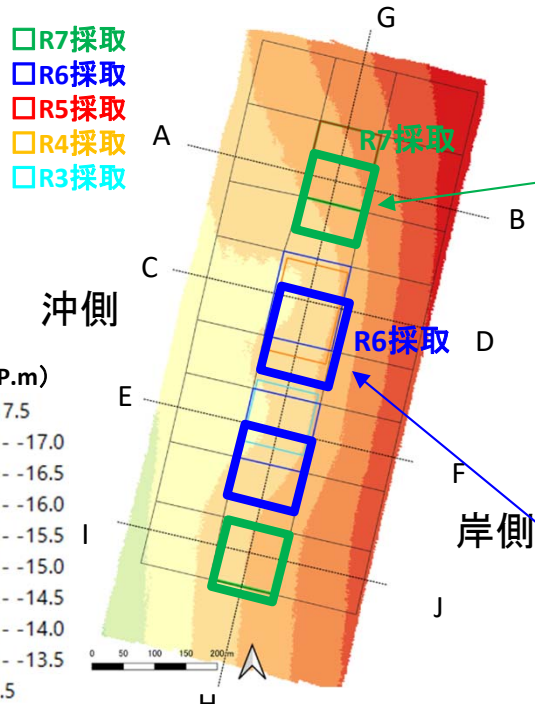
水深: 約14.0m  
沿岸方向: 約200m  
岸沖方向: 約100m  
採取深さ: 2～3m



5 海上採取・投入の状況報告 ~2025 (R7) 年度~

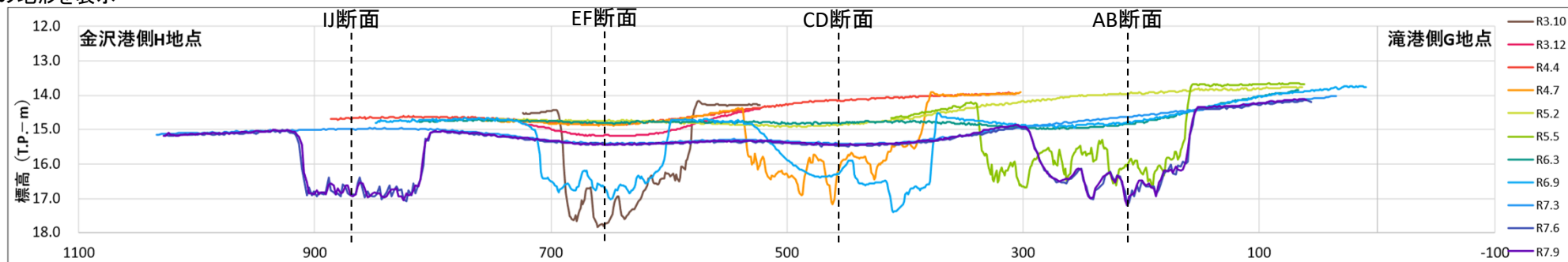
海上採取地点の断面図

- 海上採取・投入を開始した2021 (R3) 年度以降のNMB測量成果より、任意断面における断面図を確認した。
- R6採取箇所 (CD断面) については、埋め戻りが確認されているものの、採取前と比較すると、地形が完全には回復していない (深掘れは概ね解消されており、周辺環境への影響は小さいと考えられる)。
- R7採取箇所 (AB断面) については、R7.9時点で周辺含めてほとんど埋め戻っていない。



R3.10	R3採取前
R3.12	R3採取後
R4.4	R4採取前
R4.7	R4採取後
R5.2	R5採取前
R5.5	R5採取後
R6.3	R6採取前
R6.6	R6採取後
R7.3	R7採取前
R7.6	R7採取後
R7.9	

※R7採取前 (R7.3.10) の地形を表示



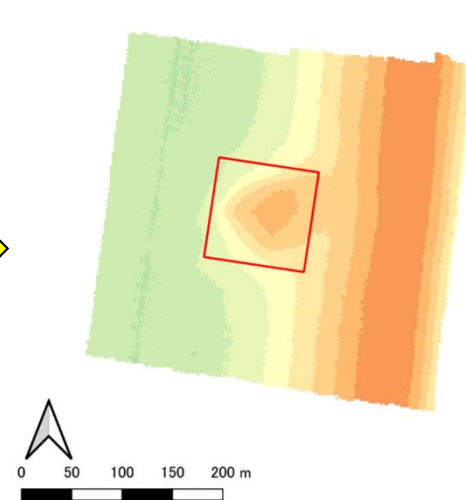
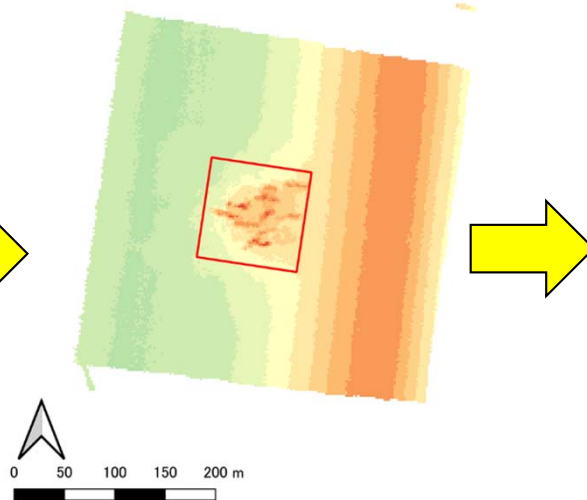
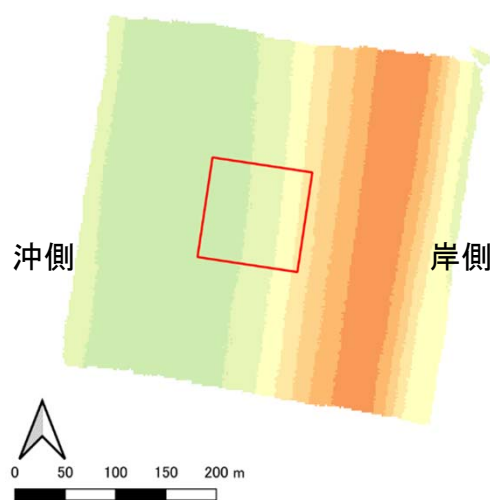
# 海上投入地点（羽咋を例示）の地形変化

■ NMB測量より、2025(R7)年海上投入範囲(羽咋)の地形変化は、「②R7投入直後(R7.5.31)」から「③R7投入後3カ月(R7.9.10)」にかけて、周辺の地形に沿ってなだらかになっているものの、投入した養浜の多くが投入場所に残っている。

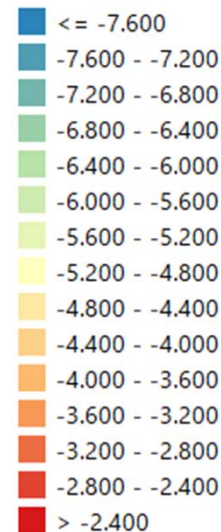
①R7投入前(R7.3.10)

②R7投入直後(R7.5.31)

③R7投入後3カ月(R7.9.10)



標高(T.P.m)



R7投入前後

①R7.3.10～②R7.5.31

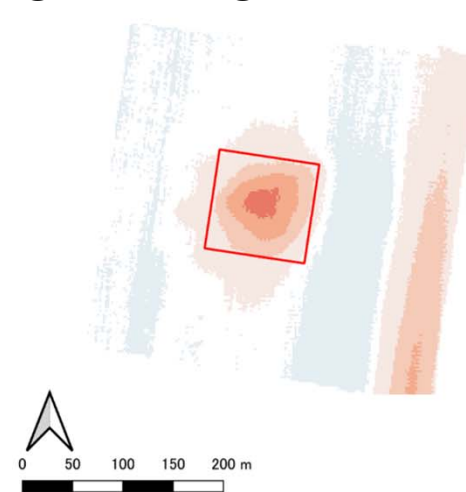
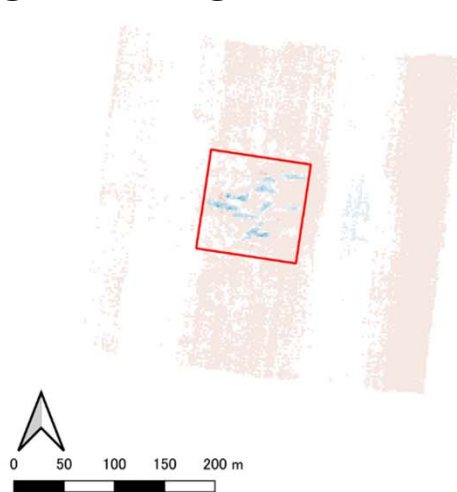
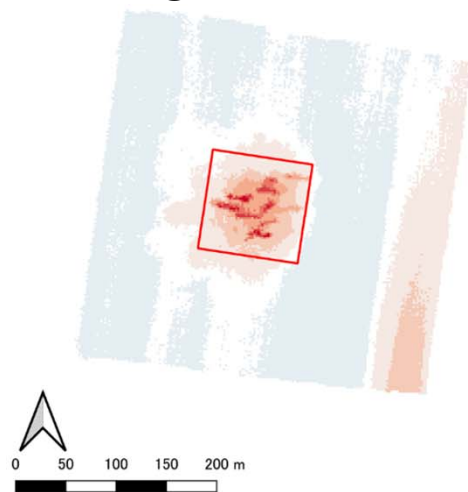
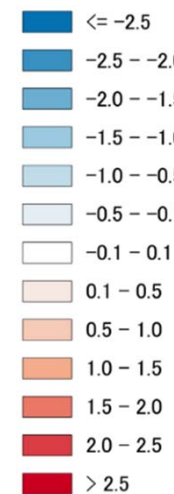
R7投入後3か月

②R7.5.31～③R7.9.10

R7投入後3か月とR7投入前

①R7.3.10～③R7.9.10

地形変化量(m)

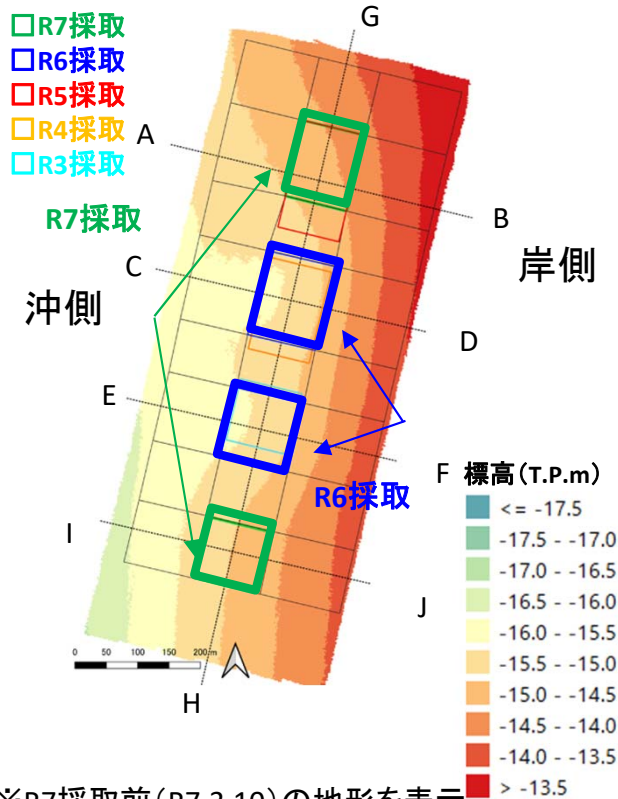


# 5 海上採取・投入の状況報告 ～2025 (R7) 年度～

## 環境調査結果 (底質調査)

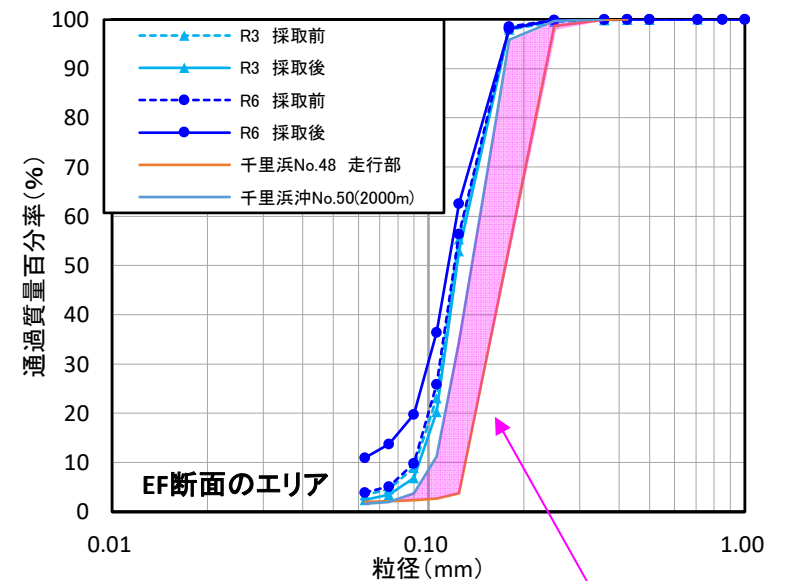
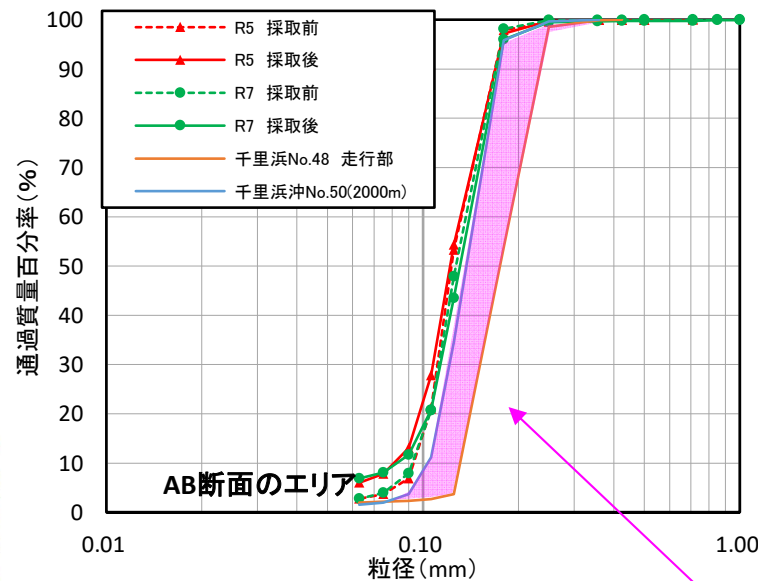
- 千里浜海岸の地形を形成している砂(ピンク枠)に対し、採取地点は細かい砂が分布している。
- AB断面のエリア: R7採取後(緑実線)の底質は、R7採取前(緑点線)の底質と比較し、細粒化しており、細かい粒径の砂で埋め戻しが発生していると考えられる。ただし、2023(R5)年度と2025(R7)年度は、粒度分布に大きな変化は見られない。
- EF断面のエリア: AB断面のエリアと同様に、R6採取前後で細粒化している。また、2024(R6)年度(青線)は2021(R3)年度(水色)と比較して、細かい粒径の砂の割合が増えており、細粒化している。

### 底質調査位置図



### 底質調査概要

- 各年度の採取箇所において、採取前と採取後に底質調査を実施している。
- 採取後は採取前と比較し、1～2m程度低い地盤の砂を採取している。



千里浜の砂(千里浜海岸の地形を形成している砂)  
(中央粒径:0.14~0.18mm)※第3回千里浜再生プロジェクト委員会より

※ 「第11回 千里浜再生プロジェクト委員会」資料-3 参考

※R7採取前(R7.3.10)の地形を表示

# 5 海上採取・投入の状況報告 ~2025 (R7) 年度~

## 環境調査結果（水質調査、底生生物調査、地曳網）

### ■ 水質調査

- 投入地点および採取における全ての水質調査地点において基準値を満たしていた。

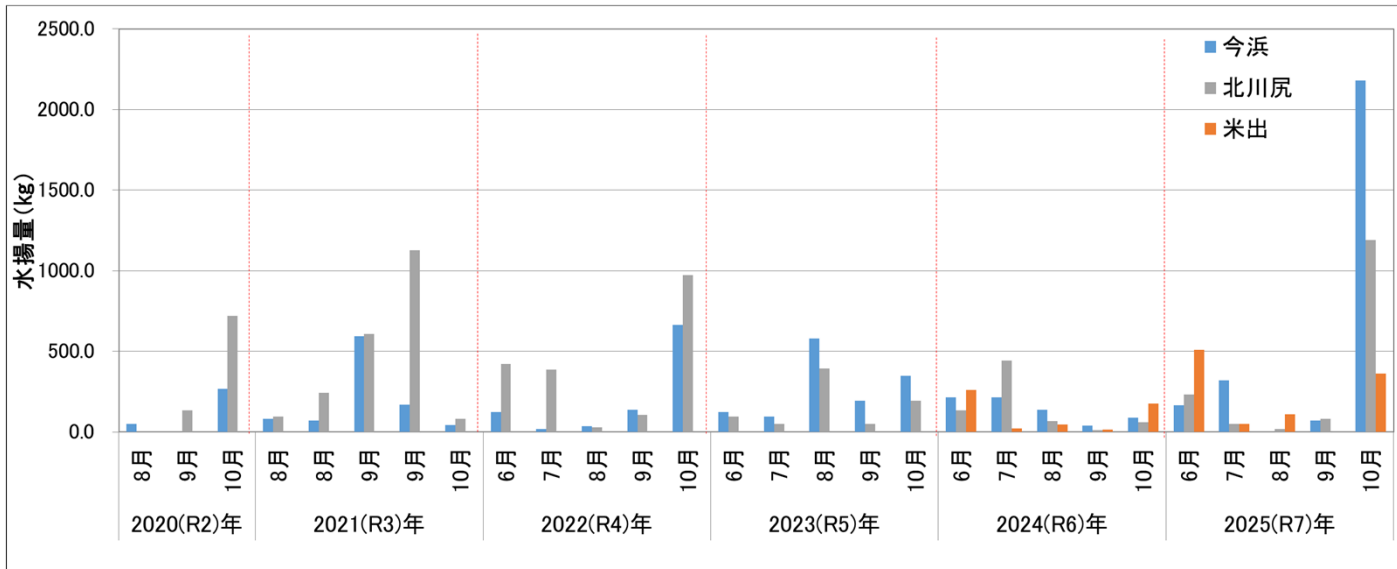
### ■ 底生生物調査

- 採取地点では海上投入後の調査で生物の種類数が減少した。なお、生物相が顕著に変化した様子は確認されなかった。

### ■ 地曳網による操業調査

- 地曳網漁操業範囲内において、魚種の特異な変化等の発生はなく、過去の海上投入による周辺環境の魚類に対する影響はなかった。
- 今後も継続的な調査を行い、魚種の特異な変化の発生、その予兆を把握するための継続調査が必要である。

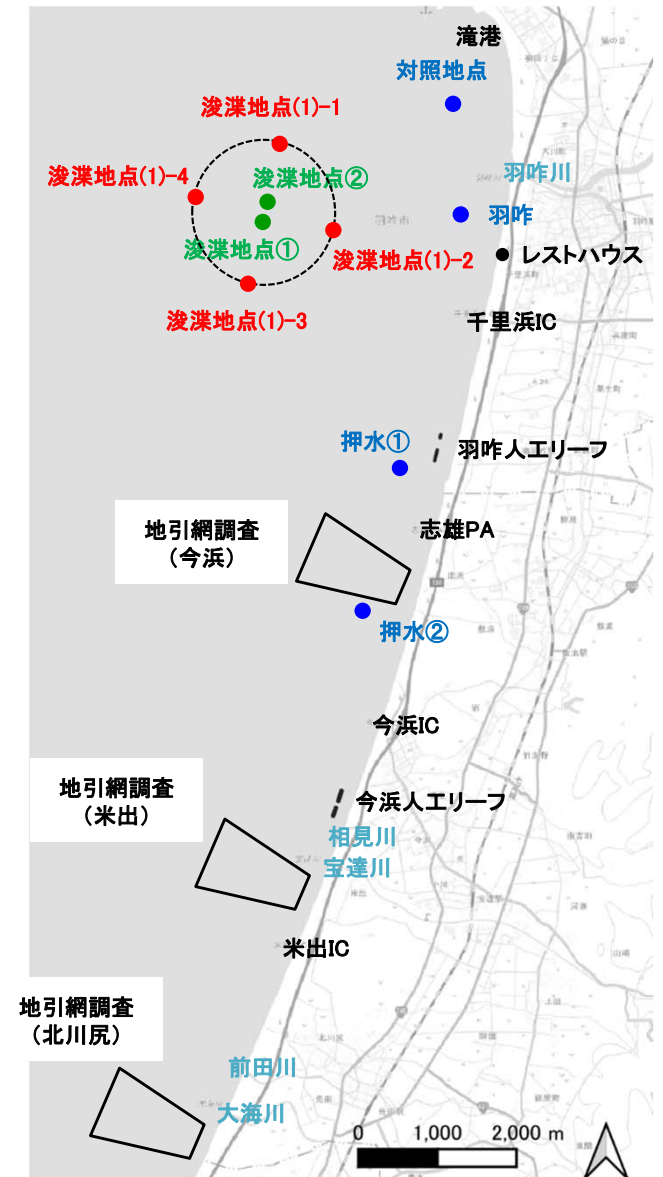
→海上採取・投入による環境への影響は見られなかった。



地曳網による水揚量の経年変化

●:水質調査地点  
●:底質調査地点+底生生物調査  
●:水質調査地点+底質調査地点+底生生物調査

### 調査位置図



※調査結果の詳細は、参考資料に整理している。

## 6 海上採取箇所の見直し(審議事項)

## 6 海上採取箇所の見直し

## 2026（R8）年度以降の海上採取箇所の選定方針

- これまでのモニタリング結果より、一定範囲におけるローテーションで採取した箇所の土砂が汀線際の粒径よりも細かいことが明らかになった。より効果的な海上投入を実施するため、以下のとおり海上採取箇所の選定方針を見直した。

		これまでの選定方針※1	これまでの実績	見直し案	考え方
養浜材としての品質		<ul style="list-style-type: none"> <li>中央粒径が<math>D_{50}=0.14\sim 0.18\text{mm}</math>の範囲。</li> <li>均等係数<math>U_c</math>※2が1.5以下。</li> <li>シルト分の含有率が5%以下。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直近で見ると上記のうち中央粒径の条件を満足していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの選定方針と同じ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>車の走行を加味し、養浜材の品質はこれまでと同様とする。</li> </ul>
養浜の採取箇所	岸沖方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>波による地形変化の移動限界水深(T.P.-10m)以深。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実績ではT.P.-14m付近で採取している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの採取箇所より、移動限界水深に近い箇所からの採取を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>汀線際と同程度の品質の土砂を採取する。</li> </ul>
	沿岸方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に制約条件なし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度ごとに採取箇所は変更しているものの、一定範囲におけるローテーションで採取している。</li> <li>冬季風浪によって採取箇所の多くが埋め戻るが、埋め戻りがやや遅い傾向である。</li> <li>埋め戻る際は採取前よりも同程度か細かい粒径の土砂が堆積している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に複数の採取候補箇所の土砂を採取し、養浜材としての品質を満足する箇所を採取箇所として選定する。</li> <li>一定範囲におけるローテーションでの採取は行わず、箇所・範囲を変更しながら採取を実施する。</li> </ul>	
モニタリング			<ul style="list-style-type: none"> <li>ローテーションしている範囲を対象にNMB測量を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿岸方向と岸沖方向に1測線ずつシングルビーム測量を実施(モニタリングの簡素化)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリングを最小限にし、効率化する。</li> </ul>

※1 「第11回 千里浜再生プロジェクト委員会」資料-3 参考

※2 均等係数 $U_c=D_{60}/D_{10}$ の値、1に近づくほど粒径が揃っていることを示している。

## 7 砂浜の海岸保全施設指定に向けた検討

## 7 砂浜の海岸保全施設指定に向けた検討

## 砂浜の海岸保全施設指定の概要と検討方針

- 1999(H11)年の海岸法の改正により、海岸保全施設に砂浜の指定が可能になった。
- 「津波防災地域づくりと砂浜保全のあり方に関する懇談会(2017(H29)～2019(R1))」での砂浜保全に関する中間とりまとめでは、『順応的砂浜管理』の重要性とその考え方が示されている。
- 砂浜の保全を効果的に進めるため、松任海岸徳光地区の砂浜約600mが、2019(R1)年9月12日に海岸保全施設に指定された。海岸法に基づく指定としては全国初の事例であり、海岸保全施設として、管理すべき防護機能を有する砂浜の範囲を設定した。
- 千里浜海岸においても、このような事例を参考に砂浜の海岸保全施設指定に向けて検討を進める。



## ○指定箇所

松任海岸徳光地区L=約600m

## ○選定理由

平成13年度に海岸保全施設(沖合施設)が完成した区間であり、現在まで砂浜が安定している。

## ○指定に向けた課題

巡視・点検計画の整理が必要。

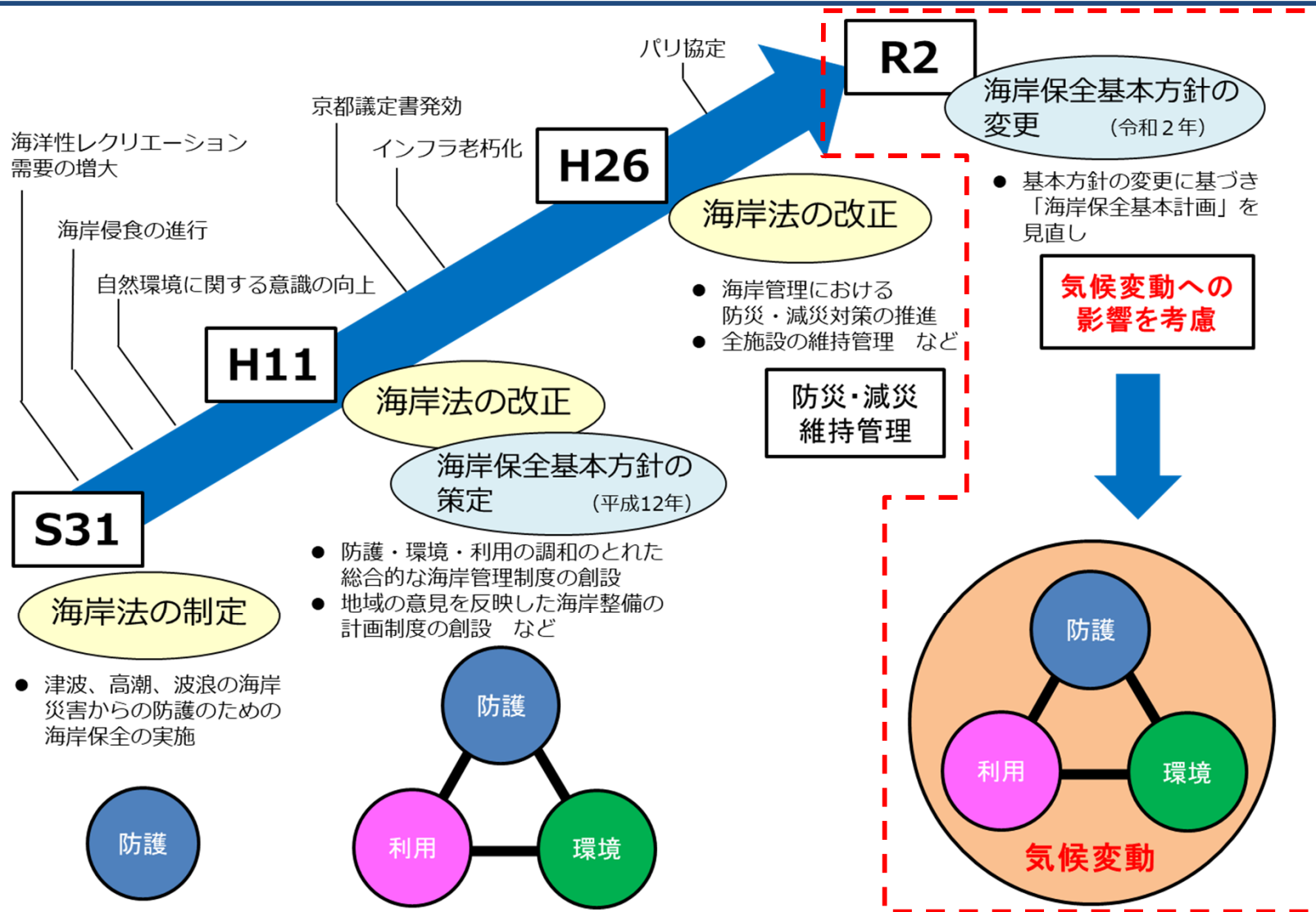
## ○その他

昭和62年度にC.C.Z.整備計画の認定を受けて整備を進めた地区であり、現在も多くの利用客で賑わいを見せ、地域の大切な憩いの場となっている。

## 8. 気候変動の影響に対する検討

# 気候変動への対応に関する経緯

- 昭和31年に海岸法が制定され、平成11年には防護・環境・利用の調和のとれた総合的な海岸管理を進めることとして海岸法が改定された。
- 令和2年11月に、国により気候変動を踏まえた「海岸保全基本方針」の見直しが行われた。



# 今後について

- 気候変動を踏まえた加越沿岸海岸保全基本計画の見直しを令和7年度中に公表を予定している。
- 千里浜海岸における気候変動の影響について、防護、環境、利用の観点から分析する。

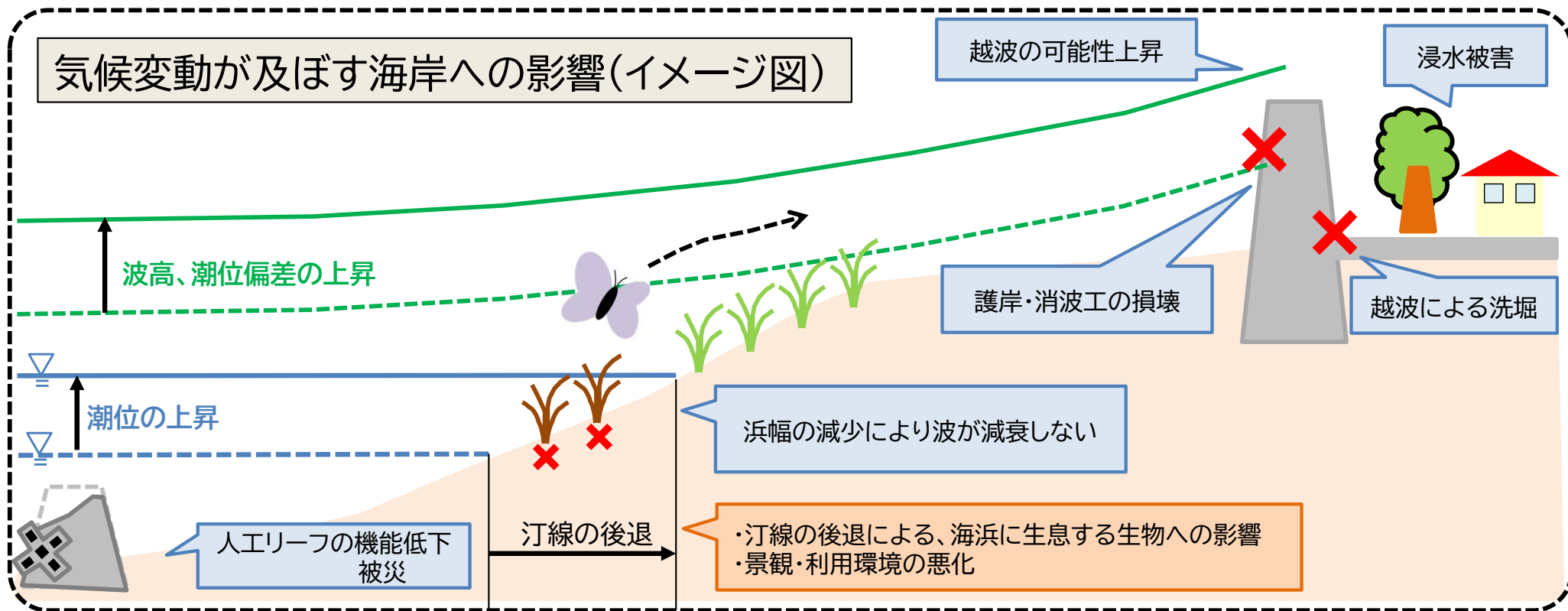
## 気候変動の影響



- ・汀線の後退による浜幅減少
- ・潮位・波高上昇による海岸保全施設の損壊
- ・波高上昇による越波等に伴い、後背地の浸水被害の増加



- ・汀線の後退による生息域の後退・減少
- ・海浜を有する景観の変化・悪化
- ・利用環境の変化による、利用者の減少



## 9 海岸保全の意識向上のための取組み(ソフト施策)

# R7年度 各種イベント（子ども参加型）

## (1)「千里浜海岸ものしり教室」



ものしり教室の様子(羽咋小学校、西北台小学校合同)

令和7年9月9日、10月28日  
羽咋市内および宝達志水町内の3小学校  
参加児童総数 110人

[内訳]  
羽咋市 2校:羽咋小、西北台小  
宝達志水町1校:押水小

## (2)「千里浜なぎさふれあい教室」



地引網漁体験

令和7年7月1日(火)  
地引網漁体験、一人一砂運動、稚魚放流  
参加児童総数 69人  
[押水小:36人、志桜小:33人]



一人一砂運動



稚魚(ヒラメ)の放流

子供の頃から、地元の貴重な財産である千里浜海岸に興味を持ち、海岸保全の意識を高めることは非常に有意義であることから、地元の小学校において、千里浜再生プロジェクトの取り組みを学ぶ「千里浜海岸ものしり教室」や、稚魚放流等により海と触れあう楽しさを経験する「千里浜なぎさふれあい教室」を行っています。

# R7年度 各種イベント（観光客参加型）

## (3)「千の輝き」(令和7年9月6日(土))



ステージイベント



一人一砂運動



ブースの設置

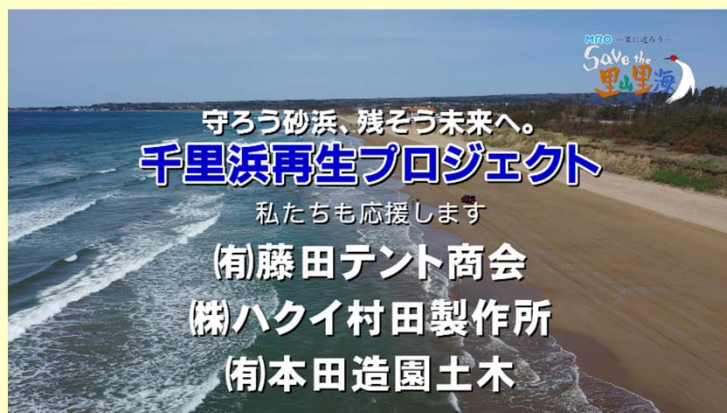


千里浜海岸浸食防止祈願祭

地元の千里浜海岸浸食防止祈願祭と同時開催した「千の輝き」では、様々なステージイベントが行われたほか、一人一人が波打ち際に砂をまく「一人一砂(ひとりひとすな)運動」のブースを設置するなど、千里浜海岸の魅力を堪能してもらいました。

# R7年度 情報発信・広報活動

## (4) マスコミを活用した宣伝活動（通年で実施）



スポットCM、協賛CM（H24.1～）

令和7年度の協賛企業について【R7.11月末現在】

・協賛企業数：30社

## (5) 県政出前講座

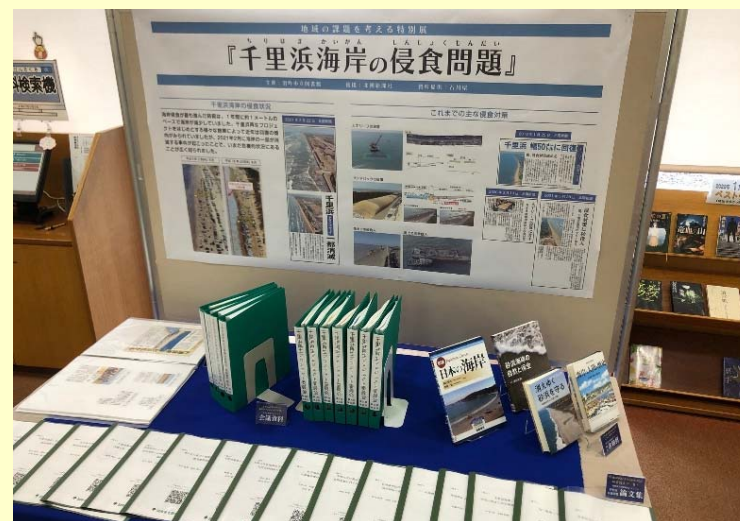
令和7年9月に実施



県政出前講座の様子

## (6) 千里浜に関する資料の展示

令和4年9月～展示を開始



資料展示の様子（羽咋市立図書館）

マスコミを活用した宣伝活動のほか、石川県が行っている事業や取り組みを紹介する「県政出前講座」にて、「千里浜なぎさドライブウェイの保全」についての講座を県内の小学生や企業に対して実施しました。また、地元の図書館で千里浜に関する資料を展示するなどの広報活動を行っています。

# R7年度 その他の活動状況

## (7) 千里浜で開催するイベントへの支援（通年で実施）



SSTR2025 (R7.5.24～6.1)



プロジェクトのPRを行うブースを設置

ジェットスキー全日本選手権 (R7.7.11～7.13)

千里浜再生プロジェクト実行委員会が主催するイベント以外の様々な集客イベントに対して、協賛金を活用した支援を行い、イベント内で千里浜再生プロジェクトの活動などを幅広く情報発信しました。

## (8) 一人一砂運動（通年で実施）



ジェットスキー全日本選手権 (R7.7.11～13)



砂袋の常設化 (能登千里浜レストハウス)

各種イベントにおいて、参加者による「一人一砂運動」を実施しています。  
また、能登千里浜レストハウス内に砂袋を常設しています。

## 令和8年度の予定

千里浜再生プロジェクト実行委員会が中心となり、引き続き、企業や団体からの協賛を得ながら、各種イベントの継続実施、情報発信、協賛金の海岸管理への活用を進める。

## 10 まとめ

# まとめ

## 定期モニタリング成果に基づく実態解析

- 2025(R7)年9月時点では、ほとんどの区間で、ドライブウェイの通行可能の目安となる砂浜幅20mを上回っている。
- 2025(R7)年9月時点では、No.22～No.65の範囲のうち約1割が20mを下回っている。

## 2024(R6)年度陸上養浜および2025(R7)年度直接養浜の結果

- 2024(R6)年度陸上養浜は、冬季風浪前に約5,000m<sup>3</sup>の養浜を実施した。
- 2025(R7)年度直接養浜は、2025(R7)年4月に約5,000m<sup>3</sup>の養浜を実施した。
- 岸沖全体で見ると養浜箇所では、2025(R7)年9月時点の土量は2024(R6)年9月時点と比較し、やや増加となっている。

## 2025(R7)年度陸上養浜の状況報告

- 2025(R7)年度陸上養浜は、冬季風浪前に約5,000m<sup>3</sup>の養浜を実施した。

## 2025(R7)年度の海上採取・投入の結果

- 滝港沖で海上採取した約46,000m<sup>3</sup>の砂を羽咋地区人工リーフ南側とレストハウスの沖合へ投入した。
- 採取した箇所は、2025(R7)年9月時点でほとんど埋め戻っておらず、今後もモニタリングを継続する。

## 海上採取箇所の見直し(審議事項)

- より効果的な海上投入を実施するために、海上採取箇所の選定方針を見直したい。

## 砂浜の海岸保全施設指定に向けた検討

- 千里浜海岸における「砂浜の海岸保全施設指定」に向けての検討を進める。

## 気候変動の影響に対する検討

- 「加越沿岸 海岸保全基本計画検討委員会」での検討を踏まえ、千里浜海岸における気候変動の影響を分析する。

## 海岸保全の意識向上のための取組み(ソフト施策)

- 令和8年度も引き続き、各種イベントの継続実施、情報発信、協賛金の海岸管理への活用を進める。